



議会だより

ていすかす

95号

発行・登別市議会／編集・議会だより編集委員会／発行日・2019.2.1

登別市議会

で

検索

または



市議会ホームページで、議会の活動や各種情報をご覧くださいませ

第12回議会フォーラム開催！



▲平成30年10月27日
市内4会場で開催

本市議会では委員会ごとに2年間の重点活動テーマを定め、これを柱に委員会活動、行政視察、各団体との意見交換および議会フォーラムのすべてを運動させ、政策提言を実現させています。今回の議会フォーラムは、各委員会の重点活動テーマなどについて、活動報告後、課題の共有を図りながら意見交換をさせていただきました。いただいた意見については、報告書にまとめるとともに、各委員会において、さまざまな委員会活動と併せて政策提言に結びつけるように準備を進めます。今後、市民との協働による開かれた議会を目指していきますので、皆さまのご理解とご協力をお願いいたします。
(成田)

第12回議会フォーラムを終えて

これからの
公共施設のあり方
総務・教育委員会

本委員会は、市役所本庁舎の建て替えが重点活動テーマですが、基本計画が未策定であることから、議会フォーラムではより広く「公共施設のあり方」と新たな取り組みを考える「財政難と人口減少の中での新たな視点とは？」をテーマとしました。



図書館については、有能な司書が他市町へ転出している実態や耐震性を心配する意見を、また、学校給食センターの広域化は賛成、その他の公共施設では、市役所本庁舎・青少年会館・陸上競技場・鷺別小学校・富久寿園などに関してさまざまな意見をいただきました。各意見の背景には財政難があることから、各種事業などを見直し、公共施設の抜本的なあり方を考える時期であると捉え、「コスト意識やファシリティマネジメントの考えを持ってチェックを行っていきます。」
(二瓶)

予算・決算委員会（平成29年度決算審査）概要・総括質疑

各種事業に反映する視点で
決算を審査
委員長概要報告

10月18・19・22日の3日間で、平成29年度各会計決算の議案を審査しました。各委員から各事業の成果や課題、今後のあり方などの質疑に加え、提案もありました。その後、市民・前進と市政クラブ21の2会派より総括質疑を行った後に採決を行い、各会計を認定しました。

本委員会では、登別市議会基本条例を順守した委員会活動と運営を行うため、「予算議案及び決算認定議案に係る審査指針」に基づき、各種事業に反映させることを念頭に、さまざまな角度から審査を行っています。
(松山)

厳しい財政状況をただす
市民・前進

質 財政が悪化している要因は何か。また、財政健全化目標とその対策は。
答 大企業がないことから税源が脆弱である。また、近年は人口減少や高齢化による社会保障費の増大など、社会情勢の変化が要因となっており、行政運営の改善が必要である。財政の健全化を測る指標については、本市の実質公債比率、将来負担比率、経常収支比率があり、道内自治体間を比較すると、本市は、全道35市の平均

地域包括ケアシステムの構築に向けて 生活・福祉委員会

本委員会は、「地域包括ケアシステムの構築」を重点活動テーマに掲げ、さまざまな意見をいただきました。

意見交換の中では、かかりつけ医がいると答えた方が多く、定期健診や健康相談のほか、健康維持のため運動や趣味を通しての友達づくりをするなど、健康に対する意識の高さを感じました。



また、「終末期について家族と話したことがありませんか」との問いに、話し合ったことがあると答えた方は少数でしたが、その中で、「家族に迷惑をかけないよう施設に入りた

す」「必要以上の延命治療は望まない」などと話されており、話し合っていない方も、「今後、家族と話していききた」と、関心を寄せていました。現状として、介護における家族の負担軽減が必要であり、そのためには、訪問介護や訪問看護体制の充実が求められるものの、まだ不十分なことから、大きな課題であると再認識しました。

(村井)

全市観光を見据えた 施策を 観光・経済委員会

本委員会では、重点活動テーマである「全市観光について」の取り組みの一環として、市内に点在する潜在的な観光資源の再発見を目標としています。

今回の議会フォーラムでは、「登別の強み」「登別の弱み」「これからのチャンス」「脅威となるもの」の4項目を軸に、観光の要素となる多くの意見をいただきました、それらを組み合わせ



「強みとチャンスを生かす」提言や、「弱みをチャンスで克服する」アイデアに結び付ける手法(SWOT分析)で行いました。

各会場で出された共通の意見としては、鉱山地区、オロフレ山系・カルル入地区などの山岳観光資源の有効活用とともに、クッタラ火山の噴火や、登別温泉に至る主要幹線道路が1本しかないことが脅威とされていました。

本委員会は、これらの対策も含め、「全市観光」の実現に向けた政策提言を行っていききたいと考えています。

(若木)

市民目線の結果が見える 広報・広聴を 議会だより編集委員会

本委員会では、3年続けて市議会の情報公開に関する意見をお聞きし、いただいた意見が少しでも反映された改善となるよう努めてきました。

議会だより「でいすかす」では、「発行回数が少なく、目に触れる機会が少なう」「市民の関心事を記事に」「内容が表面的で深みが足りない」「委員会の報告が少ない」などの意見があり、ホームページを見られない市民への情報公開の量や機会の工夫、市民目線や関心事の掲載が望まれることから、さらに改善を進めていきます。

ホームページの情報公開は安価で、大量にかつ詳しく、さらに選択して見ることができ、議会や議員の仕事を確認することができ、そのような情報に興味がない、見ない、見ることができないというのは残念なことです。今後、関心を持っていただける取り組みや、改善を続けていきます。

広聴活動は、町内会とのふれあいや対話、意見反映の結果が見えないなどの声をいただきました。市民参加と広報・広聴を総合的に捉えた取り組みの改善を図っていきます。

(千田)

※SWOT分析…課題の内部(強み・弱み)と外部(機会・脅威)4つの環境要因を洗い出し、今後の改善策などを立案するために行う分析方法のこと。

予算・決算委員会 (平成29年度決算審査) 総括質疑

を下回っており大変厳しい財政状況であると認識している。

対策としては、歳入の確保と歳出の縮減に努め、収支の悪化を招かないことが重要であり、職員の意識改革や情報収集の強化など、より一層の工夫により、最小の予算で最大の効果を発揮することが必要である。

(工藤)

厳しい財政状況について

市の考えは
市政クラブ21

質 平成29年度一般会計の決算状況について、実質単年度の収支はどのような状況となっているか。

答 財政調整基金の繰り入れなどを考慮した実質単年度の収支は、約1億4千400万円の赤字となっている。

質 財政状況は依然厳しい状況にあるが、平成31年度の予算編成に向け、どのような姿勢で臨んでいくのか。

答 過去の行政評価や予算編成で課題が残る事業などを対象に、事業の見直しに向けた検討を進めており、その成果を着実に反映させ、できる限り財政不足の圧縮を図りたいと考えている。

総括として、市税の収納率が全道35市中、本市は29位と低く改善が急務であること、今後の大型事業を控える中、従来の枠組みを超えた事務事業の見直しなどを提言し質問を終えました。

(若木)

予算・決算委員会（平成29年度決算審査）各委員の質疑

健康的な生活を続けるために

質 国民健康保険事業において、今後特に重点的な取り組みは何か。

答 本市においては、特定保健指導の対象者に加え、健康診断で複数項目が要指導域以上のハイリスク者に対しても、生活習慣病の重症化予防に取り組みでいる。

さらに、医療費適正化の観点から、すでに通院・治療の方についても、人工透析に至らないよう、市内の医療機関と協力し、糖尿病性腎症重症化予防の取り組みに力を入れていく。

（井野）

下水道施設の修繕は計画的なのか

質 下水道事業会計の事業費用における処理場費が減額となっているが、必要な修繕費を抑えて、結果として将来的に多額の費用が発生するような要因が含まれていなかったのか。

答 処理場費のうち、修繕費については定期的な施設の保守・点検を行っており、修繕が必要になった施設については、次年度予算において計画的に計上して取り組んでいる。

将来的に大きな事故などを防ぐことも含め機能維持の確保に努めている。

（天神林）

市役所本庁舎基本計画策定へ

市役所本庁舎の建て替えに要する最長の時期を、2023年度までに完了とする考えに変更はないことを確認しました。来年度には基本計画を策定するため、支援業務委託費を予算に盛り込む考えを明らかにしました。

また、給食センターの老朽化が著しい現状に対して、建て替えの必要性を指摘し、財政負担が大きいため、単独での建て替え以外にも、室蘭市との広域連携による更新整備ができないか、今後検討するとの答弁を得ました。

（辻）

公園の有効活用を

平成29年度の新規事業である市民自治推進委員会経費では、健康をテーマに、6部会に分かれて事業を実施しています。育み部会では利用人数の少ない都市公園で、一時的にボール遊びを解禁し、子どもの運動と公園の利用促進を図る取り組みを行っており、平成30年度には期間限定で、都市公園でのボール遊びを可能にしています。

今後、子どもが自由に公園で遊べる環境の整備と、充実化を図っていくよう要望しました。

（宮武）

小さな避難所の備蓄品支給方法は

質 高齢者によっては、遠くの避難所より近くの集会所などに避難することがあると想像、その場合寝具や食料などの備蓄品を支給することは可能なのか。

答 備蓄品は市内15カ所の避難所に配備している。高齢化が進む中で、近くの避難所に避難することも考えられる。このため小さな避難所を開く場合には、その避難所の一番近くで備蓄品を備えている避難所から搬入することとなる。

（小栗）

不法投棄の防止対策は

質 不法投棄が多いと思われる場所の対策はどのように考えるか。

答 不法投棄の多い場所には看板を設置している。日頃から清掃指導員によるこまめなパトロールを行っているが、撲滅には至っていない状況である。

土地所有者の中には、監視カメラを独自に設置する所もある。本市としても、不法投棄多発地帯の減少を目指し、環境省北海道地方環境事務所が行っている不法投棄監視通報システム貸与制度の活用など対策を検討する。

（村井）

クリンクル高速堆肥化採算性に疑問

質 クリンクルセンターの高速堆肥化処理施設、運営費用約2千万円、整備費3年平均で約300万円。これに対し、堆肥の売り払い収入の平均48万円は費用に見合う収入とは考えづらいのでは。

答 本施設は稼働当初から事業の採算性ではなく、循環型社会の推進を目指すシンボリックな事業として継続してきたものであり必要と考えている。

ただし、費用対効果や採算性の観点からみると、事業継続には課題があると認識しており運営の検討をしていく。

（千田）



予算・決算委員会 (平成29年度決算審査) 各委員の質疑

シルバー人材センターの今後は

質 シルバー人材センターは過去3年に比べ受注件数が減少している。その要因と、室蘭市シルバー人材センターに対する受注件数と補助金額との比較については。

答 減少の主な要因は草刈業務において刈った草の処理も行っているため、新たな依頼を断っている。受注件数が減少している。室蘭市との比較については会員数や受注件数などに差があるので一概に補助金の比較は難しいが、良い事例を検証してみたい。

(二瓶)

老朽化している橋梁維持補修の計画は

質 橋の補修設計や補修について予算を平準化しているものの、補修の優先順位が計画どおりに実行していけるのか。

答 全橋梁の一巡目の点検が終了し重大な事故につながるような損傷は発見されていないが、交付金の配分率が低く修繕が計画より若干遅れている。今後市内の橋梁については、橋梁長寿命化計画に基づき修繕や点検に加え、日ごろのパトロールを通じて、橋梁の安全確保に努める。

(工藤)

地熱利用の可能性は

質 登別市地熱利用検討会の活動は。

答 温泉排水を活用した融雪システムを導入について現在、北海道や関係団体と協議・調整を進めている。

質 石油天然ガス・金属鉱物資源機構が行った調査の結果は。

答 平成28年度から2年間、本市を含む近隣地域において、ヘリコプターによる物理探査が行われた。調査の結果、調査範囲の中でカルルス温泉周辺が地熱発電の有望地として、一番高い可能性があることが示された。

(若木)

子どもたちの瞳が輝く新学期のために

質 要保護・準要保護就学援助金の新入学準備金の支給月と児童生徒数は。

答 3月に支給し、小学1年生は34人、中学1年生は、61人である。

質 平成30年度における入学準備金の支給が3月になり、保護者も喜んでおります。しかし、入学前の準備のためには、支給時期が遅すぎます。期待に胸をふくらませ、春を待つ子どもたちのために、新入学準備金の支給は、3月支給をさらに早めて1月支給にするように求めました。

(渡辺)

ライブラリースタート事業見直しは

ライブラリースタートについては、平成30年度の利用者ニーズによって別事業への転換、または事業廃止を検討することから、現状について質問しました。

ライブラリースタートの配布率は、平成27年度約20%から平成29年度で約40%に上昇しているとのことでした。この事業の目的は、子どもたちに図書館に親んでもらうことであり、配布率が低くても、再訪問率など考慮し、慎重に検討してほしいと要望しました。

(戸井)



ライブラリースタートの改善点は

質 ライブラリースタートの配布率が上がってきた理由は。

答 配本所やアーニス分館、移動図書館でも見本図書を用意し受け付けを始めたためである。

質 平成29年度以降の改善点は。

答 周知方法は、これまで3歳児健診時に行ってきたが、今年度からは直接郵便で送付する。また、図書館の楽しさなどを見つけてもらうために、「ライブラリースタートのおはなし会」を毎月開催している。

(佐々木)

市税収入未済額の縮減の取り組みは

質 市税の収納状況について、特に大口滞納の収納率を高めていく取り組みをどう進めていくのか。

答 大口滞納は約50件あり、業種別でサービス業、小売業が多い。平成29年度は公売により32万5千865円を徴収した。今後も給与、預金、年金、生命保険ほか各種財産調査を徹底する。

滞納者の生活実態が不明な場合、滞納者の自宅を強制的に搜索するなどの手段も用い、差し押さえ可能な財産を速やかに差し押さえていく。

(米田)

委員会だより

総務・教育委員会

公共施設のあり方と 新たな取り組み

今年度の活動を振り返ると、市から3月に出された「本庁舎建設基本構想」と8月に出された「幌別地区と鷺別地区の消防体制について」の考え方により、委員会活動も軌道修正せざるを得ませんでした。本庁舎は有利な起債制度「市町村役場機能緊急保全事業」を活用した平成32年度までの完成は困難であるということ、幌別と鷺別地区を統合した新消防本署を整備した後、本庁舎を建て替える考えが示されたことから、現時点で本庁舎の建て替えに

ついては、推移を見守る段階にあると考えています。そのため、より広く、公共施設のあり方と新たな取り組みを考えることに主眼をおいて活動してきました。

今後、議会フォーラムや、議会サポーター・関係団体との意見交換会でいただいた意見をしっかりと精査し、市長に政策提言書として提出する予定です。

(二瓶)

生活・福祉委員会

専門大学卒業生の人材確保

昨年12月7日に開催した本委員会において、「登別市放課後児童健全育成事業の設備及び運営の基準に関する条例の一部改正について」審査しました。この条例は、国の基準の改正に伴って条例の一部を改正する内容で、新たに始まる専門職大学制度により、一定

ができるよう、対象を広げるものです。委員からは、本市で学童保育の職員数を確保することが難しくなり、運営に支障をきたすような事例があるのかとの質問がありました。現状では、基準をみたく職員を各放課後児童クラブに不足なく配置できていますが、職員の退職などに伴い募集しても、すぐに応募がないこともあり、職員確保には人材不足により苦慮している状況が分かりました。

(村井)

昨年12月17日に、いぶり中央漁業協同組合との意見交換会を行いました。

地球温暖化で海水温が上昇することによる漁獲魚種の変化について、従来

水揚げの要であったスケトウダラ、秋サケ、イカ、毛ガニなど近年の漁獲量の推移、本市の強みともいえる「登別漁港」や「鷺別漁港」内での養殖の可能性を含めた有効活用などについて伺い、漁組からは現状の詳細について説明の後、サメやオットセイによる漁具被害などの直面している課題や稚ウニ

の種苗放流状況など、貴重な意見を聞くことができました。

今回、漁組の皆さんと委員との活発な質疑

応答を重ね、内容の濃い意見交換会となりました。この意見交換会の内容も参考に、本委員会としての重点活動テーマである「全市観光を見据えた観光施策について」の政策提言につなげていきます。

(若木)



▲観光・経済委員会 いぶり中央漁業協同組合との意見交換会の様子

の要件を満たした卒業生でも、学童保育業務従事者としての資格を有すること

市議会ホームページでは、議員名簿を掲載し、議員個人のメールアドレスなど

も公開することで、市民から各議員に直接連絡が可能な広聴活動を行っています。さらに、このたびインターネット環境にない方や、議場に傍聴に来られた方からも、広く意見をいただく仕組みづくりにむけて協議を重ねてきました。まずは、傍聴いただいた方に、

(工藤)

観光・経済委員会

いぶり中央漁協との 意見交換会開催

議会運営委員会

議会傍聴者に対する 広聴活動について

平成30年第4回定例会

一般質問 議員11名が市政を問う



登別・温泉地区の施設整備方針
辻 弘之



登別温泉地区では、消防支署の集約移転による廃止、支所の廃止、

ふれあいセンターの廃止などが続く予定ですが、残される児童室や公民館などの具体的移転先については、いまだ不透明なままです。登別地区でも同じく、消防支署移転後の消防団詰所や公民館の取り扱いが明確にはなっていない。特定の地域に公共施設削減が強いられないよう、十分な配慮が必要と指摘しました。結果、温泉地区については、来年度中に新しい施設もしくは既存施設への移転について、具体的な方針が示されることになりました。登別地区については、消防団詰所を新しく建て替える方針が再確認されました。また、NPO法人への寄付を促すために、市民税額控除対象団体を条例で指定する条例個別指定制度を再提案しました。結果、制度化が進められることになりました。

そのほかの質問：市民活動団体の推進について

防災計画について
ただす
村井 寿行



災害を未然に防ぎ、できるだけ被害を軽減させるためには、事

前の計画や対策マニュアルなどの整備が必要となる。各種防災計画の考え方と進捗状況は。
[答] 「避難所運営マニュアル」は、災害時に円滑な避難所運営を図る上で必要なものと認識しており、今年度中の策定を目指して作業を進めている。
「受援計画」は、現在、他市の事例や今回の北海道胆振東部地震を検証している。
「業務継続計画」は、現在、優先的に計画策定を進めているが、北海道胆振東部地震を踏まえ、素案の見直しを行っている。「タイムライン」については、現在北海道が主導で進めている胆振幌別川と来馬川の洪水を対象とした避難勧告発令のタイムラインについて、連携しながら策定を進めていきたい。

地域防災計画の対応ポイント
千田 文孝



登別市地域防災計画の重要なポイントの詳細を確認しました。

[質] 社会福祉施設事業者の防災マニュアルや訓練状況の把握は。
[答] 書類審査で設備や連絡体制、訓練など整備・実施されていることを確認している。
[質] 避難所などの現場対応マニュアルは整備されているのか。
[答] 整備していない。
[提案] マニュアルを整備して訓練などを行い、非常時に住民の心に寄り添った行動ができる人づくりを行っていただきたい。
[質] 若山浄化センターが稼働不可となった場合の対応は。
[答] 配管内の滞留は1日持たないと思われ、市民に流さないよう広報活動を行い周知する。
[質] 若山浄化センターが復旧するまでの間、排泄物の対応は。
[答] 仮設トイレを設置し、し尿収集を広域的に応援要請する。簡易トイレの備蓄はなく、検討中。

そのほかの質問：交通弱者の移動・交通手段の確保に関する進捗について

市政運営3期目の独自性とは
天神林 美彦



市長は、平成28年9月に、市政運営3期目における所信の一端

として「地方活性化に力点を置いた独自性のある取り組みへ、自ら考え・行動し・個性豊かで魅力あるまちづくり」に取り組みと述べている。任期後半にあたり、改めて、抱負も含め、その考え方を聞きたい。
[答] 国が示す地方創生の実現には、地域自ら課題と向き合い、解決しようとする独自性のある動きが不可欠であり、積極的に支援することとしている。
本市は、かねてより市民と行政が適切に役割分担する「協働のまちづくり」を進めており、今回の北海道胆振東部地震の際の地域住民自らの判断行動などは、これまでの取り組みの成果の表れと自負している。
残りの任期も、協働のまちづくりの理念のもと、独自性のある持続可能な取り組みを推進する。

乳幼児健診の拡大を

小栗義朗



質 乳幼児健診は現在、3歳児健診後は小学校入学前まで行われて

いない。子どもの発達障がいも早期に発見するためには、5歳の時点で健診または発達相談を行うべきでは。

また、小児がんの一つに網膜芽細胞腫という目のがんがある。早期発見で脳への転移や失明を防ぐことができるので、乳幼児健診に追加できないか。

答 発達障がいの疑いに関しては、就学を間近にした年長児において、療育機関に駆け込む事例があるため、3歳児健康診査以降に年中児を対象とした相談体制を来年度からの実施に向けて検討している。

網膜芽細胞腫の早期発見については、検査項目とすることは難しいが、全戸訪問している赤ちゃん訪問などで、乳児の目が白く見えたり、光っていると感じたときは、速やかに眼科を受診するよう周知していきたい。

そのほかの質問：予防接種の取り組みについて、高齢者の外出支援について

地域包括ケアシステムの現状は

木村俊子



質 高齢者といわれる65歳以上の人数と状況は。

答 介護保険の被保険者は、1万7千65人。

要介護認定者は、要支援1千325人、要介護1千711人で、要支援の認定者に占める割合は43・6%と全道平均を上回る。健康な方を含め、何らかの理由により介護認定を受けていない方は1万4千29人である。

質 リハビリテーション専門職によるシニア元氣アップ講座の受講者は、サロンサポーターなどを対象とされている。サロンなどに還元され、そこに参加することが、高齢者の生きがいとなり、健康寿命の延伸につながるかと考える。このような活動に対してボランティアポイントを付与する仕組みをつくり、健康づくりに生かすべきではないか。

答 先進自治体における取り組みを調査し、関係者による意見交換を行い、実施の可否について検討したいと考える。

そのほかの質問：子どもの貧困対策について

総合事業の現状と課題は

佐々木久美子



質 要支援1・2の人数は。

答 要支援1が786人、要支援2が539人である。

質 介護予防・生活支援サービス事業の現状と課題は。

答 制度改正で、介護予防・生活支援サービス事業を含む介護予防・日常生活支援総合事業の上限額が定められ、その範囲内の事業の実施が求められている。

質 要支援1・2の訪問型サービスの現状は。

答 現時点ではこれまでと同様に有資格者によるサービスを提供している。

質 総合事業の上限額を理由に、利用者へのサービスが低下しないよう、本市の取り組みが重要になってくるが、どのように考えているか。

答 あらゆる社会資源を活用し、要支援の方も含めた高齢者が、地域で自立した生活をする事ができるよう事業を進めていく。

財政難での公共施設整備は

二瓶秀幸



質 公共施設等総合管理計画によると、旧耐震基準の公共建築物は

全体の60・3%を占める。また、公共建築物の市民1人当たりの延床面積は5・5㎡で、類似自治体の1・5倍である。今後更新または延命化をする際、人口減などを考慮すると、将来的な財政負担の軽減を図るため役割・効果が乏しい施設は除却・複合化・集約化して延床面積を縮減することが必達目標では。

答 全てを同じ規模で建て替えの場合、今後40年間で約2千13億円かかると推計しており、延床面積は40%縮減を目標としている。また、財政負担の軽減・平準化を図るため公共建築物の個別施設計画を平成32年度末までに策定を進めている。本庁舎の建て替えは最優先事業であることに変更はないが、整備手法は、PFIなどの活用や公募型プロポーザル方式も有効と考えている。

※PFI…公共施設などの建設、維持管理、運営などを民間の資金、経営能力および技術的能力を活用して行う手法

本市の除雪体制と共助などの連携

若木康夫



近年の市内における降雪量は減少傾向にありますが、年によって降

雪が多い年もあり、除雪作業による市内交通網の維持は市民生活に直結する重要な関心事となります。

そこで、本市における除雪体制の概要、除雪開始の目安となる降雪量、市保有の除雪機械の台数と除雪委託事業の状況、運転手の確保や、国・道との連携体制と、除雪作業時の雪出しや路上駐車などの除雪作業の妨げの対策として、室蘭警察署との連携などを質問しました。

また、限られた台数で除雪を行う関係上、地域における除雪作業の時間差、作業の遅延が生じますが、今後、独自に除雪を行う町内会の希望があった場合の公助の考え方について、他自治体の先進事例を参考に、本市における自助、共助、公助の「三助」による地域内除排雪の考え方を提言しました。

登別市 スポーツ表彰で応援 宮武祥子



2020年
東京オリパラ
を契機に、本
市ではトップ
アスリートに

よる講演・交流などに取り組んでいきます。これらは、子どもたちの夢・目標の幅を拡大させ、今後のスポーツ振興やスポーツを通じた地域活性化につながると思われ、市の応援体制として、スポーツで功績を残した方への表彰について質問しました。

現状では、体育協会の表彰規程に沿って、協会加盟の有無に関わらず、団体・個人に対し表彰しています。市としての表彰は、登別市功労賞および登別市表彰において、スポーツの振興に尽力された方を対象に表彰を行っています。

そこで、功績を残したスポーツ選手に対し、スポーツ表彰の実施を提案しました。また、文化の日に行う市表彰に、現在の規程に加え、新たにスポーツ部門の検討を提言しました。

社会変化に適応した 行財政を 松山哲男



少子高齢化
や人口減少な
ど、社会背景
が変化し大き
な転換期を迎

えたこれからの行財政と、教育行政の取り組みについて質問しました。

従前の考えや手法による財政分析や行政マネジメントによる問題・課題を指摘し、福生市の公会計制度の取り組みを紹介しながら、効率的・効果的な行政経営のシステム構築や、空き家の福祉転用などを示し、政策・施策策定における部署間のより強い連携システムの必要性を提起しました。

教育行政では、インターネット・ゲームやスマホなどへの子どもの依存状況の把握と予防などについて、登別らしい子どもの姿を明示し、依存症防止の取り組みを求めました。また、少人数の一年生学級がある小学校の適正配置の取り組みと総合教育会議の適正配置に対する市長の見解を質問しました。

そのほかの質問：ホストタウンの取り組みについて～2020年東京オリンピック・パラリンピック～

議員研修を行いました

有益だった 2つの議員研修会

北海道職員を講師に迎えて「地方自治体の財政状況の見方」をテーマに研修会を開催しました。本市の財政状況や公会計の意義について講義を受け、財務書類などの公会計情報を理解した上で地方公会計を活用する重要性を学びました。

また、アイヌ語研究者にご協力をいただき、白老町議会と合同で、「登別の地名由来」をテーマに、研修会を開催しました。アイヌ語地名からのアイヌ文化理解と民族共生象徴空間完成に向けた白老町のより強い連携の必要性を感じる、有益な研修となりました。



▲平成30年10月31日開催 登別市・白老町議会議員研修会の様子

車いすの方の 傍聴席ができました

平成30年第4回定例会から、車いすの方用の傍聴席を設けました。現在の傍聴席前方、議場側のスペースとなります。ご理解・ご協力をお願いすることもありますが、ぜひご利用ください。

また、傍聴規制を緩和し、写真撮影や帽子の着用も可能となりましたので、ルールを守って傍聴されますようお願いいたします。

(工藤)

国会・政府に3件の意見書を提出

意見書は、市政の発展に必要な事柄の実現を要請するために関係機関に提出するものです。第4回定例会では、次の意見書を可決しました。詳しい内容は、市議会ホームページでご覧いただけます。

- 無戸籍問題の解消を求める意見書
- 認知症施策の推進を求める意見書
- 義援金差し押さえ禁止法の恒久化を求める意見書

議会を傍聴しませんか

平成31年第1回定例会は、2月21日(木)から開会する予定です。本会議や委員会は、自由に傍聴することができます。第4回定例会では、延べ24名の方が傍聴されました。紙面ではお伝えできない議会や議員の生の姿を見聞かれますので、ぜひお越しください。

傍聴の際の意見・感想を受け付けます

平成31年第1回定例会から、意見箱を傍聴受付と本庁舎1階に設置します。意見や感想などをお寄せください。

インターネットでも議会議中継をご覧いただけます

議会に足を運ぶことができない方も、インターネットで本会議や委員会の生中継、過去の録画中継をご覧いただけます。パソコンで市議会ホームページにアクセスし、「議会議中継」のリンクからご覧ください。▶問い合わせ 議会事務局 (☎9220)

平成30年第4回定例会における 議案の賛否状況 (挙手採決議案のみ掲載)

議案	賛成議員	反対議員	結果
平成29年度登別市国民健康保険特別会計歳入歳出決算の認定について	井野、小栗、木村、工藤、杉尾、天、戸井、神林、松山、二、村井、宮、若木、武田	佐々木、渡辺	可決